授業科目	精神保健福祉制度論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	梶原　浩介						
授業概要	精神障害がもたらす生活への影響について理解を深め、精神障害者の自立と社会参加のための地域システムや法・制度について学ぶ。居住、就労、地域で主体的に生活するための支援について、精神保健福祉領域や教育臨床領域における実践事例等を用いながら考察を深める。また、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。その際、必要に応じてグループワークを取り入れ、包括的な地域生活支援のためのサポートシステムについて意見交換を行う。						
授業形態	講義・演習			授業方法	基本、講義形式の授業を実施します。一部、テーマに基づいてグループワーク、Google フォーム 等の ICT を活用した自主学習を取り入れます。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．精神障害者に関する法制度の体系について理解できる。 2．精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解できる。 3．生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解できる。 4．生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解できる。 5．障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。
理想的レベル	1．精神障害者に関する法制度の体系について理解し、他者に説明できる。 2．精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、他者に説明できる。 3．生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、他者に説明できる。 4．生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、他者に説明できる。 5．障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について理解し、他者に説明できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト		
レポート	20%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	10%	課題に対する話し合いも含む。
レポート外の提出物		
その他	10%	授業中の発言・質問、参加姿勢等

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	WE21301J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）

・講義範囲のテキスト事前通読及び授業で示された文献等を読み、興味や関心、疑問点、授業外で調べたこと等をノートにまとめる。	4

授業計画	
第 1 回	・オリエンテーション ・精神障害者に関する制度・施策の理解①
第 2 回	精神障害者に関する制度・施策の理解②
第 3 回	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割①
第 4 回	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割②
第 5 回	精神科医療がかかわりをもつ施策
第 6 回	精神障害者の医療と関連する施策
第 7 回	医療観察法と精神保健福祉士の役割
第 8 回	精神障害者の生活支援に関する制度①
第 9 回	精神障害者の生活支援に関する制度②
第 10 回	精神障害者の経済的支援①
第 11 回	精神障害者の経済的支援②
第 12 回	精神障害者と生活困窮①
第 13 回	精神障害者と生活困窮②
第 14 回	精神障害者と生活困窮③
第 15 回	・授業全体のまとめ
テキスト	最新・精神保健福祉士養成講座４「精神保健福祉制度論」中央法規
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・参考文献、資料などは講義の際に適宜、情報提供します。
課題に対するフィードバックの方法	・授業中、テーマに基づいてグループワークで検討した内容に基づき、授業資料等を用いて振り返りをします。また、Google フォーム 等の ICT を活用した自主学習に対しては、回答例を提示します。
学生へのメッセージ・コメント	・精神保健福祉領域の情報(新聞、雑誌、ニュースなど)について関心を持ち、わからないことがあったら調べてみるなど積極的な姿勢が必要です。 ・より理解を深めていくために、必ず事前にテキストを一読しておいてください。そのうえで、精神保健福祉領域の情報等に興味関心をもってアクセスし、理解を深めてください。